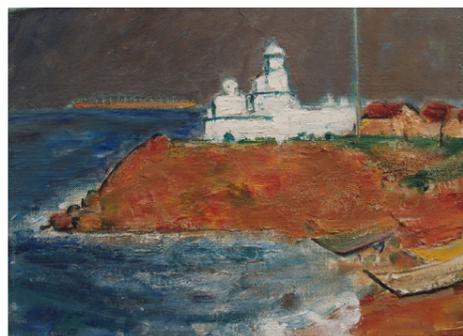


感動一点の場

『燈台』

制作年不詳 小川原 脩 画



鈍色の空と、海岸段丘にぶつかり荒々しい波しぶきを上げる海。そこに突き出た岬に白い灯台がくっきりと浮かびあがっています。悪天候のためでしょうか、漁の船は浜に揚げられています。空、海、陸、建物のそれぞれがしっかりと存在感を伝えてくる本作ですが、実際は長辺が30センチ程度の小さな作品です。

小川原脩の作品には、たびたび灯台がモチーフとして登場します。スケッチや資料を調べていくと、実際に訪れたことのある、道東の根室港灯台、花咲灯台、そして納沙布岬灯台がモデルになっていることが分かります。彼は幾度も納沙布を訪れたことがあるようで、古い時代では1921年7月に根室から択捉島や北千島の島々を、そして1970年10月に根室と知床を旅していますが、何年かが明記されていないスケッチもあり、そちらには5月下旬の日付だけが記されています。

本作は1970年代以降、納沙布岬灯台がモデルの作品と思われるのですが、どの旅行の後に描かれたのか、まったく関係の無い時期に描かれたのか、現在も調査中です。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

478回

除雪と流雪溝

今年も、1月には降雪量が300センチを超え、最大積雪も150センチとなり、町民の皆さんは日々除雪に追われています。今回は昭和50・60年代に建設され、今も除雪に利用されている流雪溝について紹介します。

町内で初めて建設されたのは倶知安駅構内のもので、昭和36（1961）年のことでした。これは道内でも先駆的な事業として脚光を浴びました。

市街地の流雪溝は、第一期として、昭和52（1977）年に駅前通り（駅前から国道5号線の間）が、昭和54（1979）年に国道5号線（北5条から南10条と11条の間）が建設されました。クトサン川の水を導水路や分岐槽を経て道の両側端につくられた流雪溝に流しました。

第二期は、昭和60（1985）年から3年間で国道276号線（国道5号線から東4丁目通りの間）とメルヘン通り（国道5号線から北3条通りの間）に建設されました。これで総延長約7キロ・4系統の流雪溝が設置され、さらに既存の都市下水路（4.3キロ）を利用した流雪溝も設置されています。

流雪溝が完成したことで、道路端で山となっていた雪が、沿線の町民の協力によって排雪され、快適な環境へと一変しました。流雪溝の維持には町民全体の理解や協力が必要になります。これからも流雪溝を使い、冬の生活環境を保ち続けたいものです。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）



▲流雪溝位置図
（赤：流雪溝 青：下水路）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第64回「麓彩会展」

今年で64回目を迎える「麓彩会展」。油彩・水彩・日本画・書・陶・写真・彫刻・ミクストメディア・・・ますます多彩な展覧会になりました。地域に根差した創作活動を展開する作家25名の作品を紹介します。

【出品作家】 荒野紫洋 レイナード・アートバーグ 菊池ひとみ 岸本春代 小島英一 坂口清一 嶋貫由紀子 高橋篁仙 徳丸 滋 徳丸 晋 仲 駿輔 西村勝廣 羽山雅愉 林 幸子 林 雅治 坂東宏哉 府川 誠 福田好孝 穂井田日出麿 本庄隆志 本庄優子 宮崎むつ 山川由紀子 山田則意 米澤邦子
会期：開催中～2月26日(日)

■第2展示室

没後20年 小川原脩展「小川原先生のちいさな名品展」

会期：開催中～2月5日(日)

小川原脩セレクション「戦地スケッチ展」

小川原脩が残した160点もの「戦地スケッチ」。2022年、北海道立近代美術館との共同研究で調査が行われ、2008年以来となる戦時下スケッチの公開となります。若き画家は第二次世界大戦のさなか、何を目撃し、描き残したのか。

【北海道立近代美術館（札幌）「戦時下の北海道美術—画家たちは戦地で何を見たのか—」との連携企画です】
会期：2月11日（土・祝）～4月16日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ギャラリー・トーク

「従軍画家の戦地スケッチ—小川原脩の1944年」

新しく始まる「小川原脩セレクション 戦地スケッチ展」の展示について、実際の作品を前に学芸員がお話しします。

日時：2月11日（土・祝）14時～14時30分
会場：第2展示室（展覧会初日のため無料）
お話：沼田絵美（学芸員）

■土曜サロン

京都逍遥⑩「王城を護った隠れ里」(後半)

三千院を中心とする大原の寺々。壮大な延暦寺を経て緑深い鞍馬の山へと向かいます。
日時：2月18日(土)14時～14時45分
会場：映像ルーム（無料）
お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

★雪トピアフェスティバル協賛

2月18日(土)・19日(日)は美術館・風土館の観覧料が特別割引（団体料金）になります。

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141
観覧料：一般 500円(400円)
高校生 300円(200円)
小中学生 100円(50円)
倶知安風土館 ☎22-6631
観覧料：一般 200円(100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
2月の休館日 毎週火曜日、美術館は6日(月)～10日(金)、27日(月)～3月3日(金)（展示替えのため）
展覧会初日（2月11日）は美術館観覧無料

アイヌ文化

私がアイヌに強い関心を抱くようになったのは、以前よく通っていた、とある温泉の休憩室に備えてあった漫画「ゴールデンカムイ」を読んでから。その後は趣味であるミュージアム探訪のテーマの一つとして、道内を巡るようになりました。

昨今では国が民族共生象徴空間（通称ウポポイ）を整備するに至り、今日までの多文化共生のムーブメントにもつながっています。

きっかけはどのような形でも良く、先住民族であるアイヌの文化や生活に触れる、想いをはせることが大事なのだと思います。

そうした機会の一つとなるであろう企画展が、小樽市総合博物館本館で現在開催中です。小樽らしく海をテーマに貴重な民具や工芸品が並び、非常に充実した展示となっていました。図録も素晴らしい出来栄です。（購入しました！）

館長 福原 秀和